



Agresh

12月号
No.153

JA十和田おいらせ

〒034-0081 青森県十和田市五十二丁 電話 0176-23-0311 FAX 0176-54-1829
E-mail: jstowada@jstowada.or.jp
〒034-0081 青森県十和田市五十二丁 電話 0176-23-0311 FAX 0176-54-1829
E-mail: jstowada@jstowada.or.jp

地域と農業を結ぶ、ふれあいと絆の発信源“あぐれっしゅ”

Agresh 12月号 No.153



特集 JA十和田おいらせの2022年を振り返る
～令和4年1月1日～11月30日～

農家さんの料理教室

これぞ男飯！

ゴボウ香るペペロンチーノ



調理時間：20分

材料(4人前)

ゴボウ…………… 1本	鷹の爪…………… 2本
ニンニク…………… 2片	しょうゆ…………… 適量
パスタ(市販)…… 400g	味の素…………… 適量
オリーブオイル…大さじ4	

作り方

- ① 包丁の背でゴボウの皮を削ぎ、2mmほどの厚さで斜め切りにして水にさらす。
- ② ニンニクは皮をむいて、1片をみじん切り、1片を薄くスライスする。
- ③ フライパンにオリーブオイルを敷いて、ニンニクと鷹の爪を入れて炒める。
- ④ ニンニクの香りが出てきたら、ゴボウを入れて炒める。
- ⑤ 茹でたパスタを④に入れる。
- ⑥ ゆで汁をお玉1杯入れ、しょうゆと味の素で味を調えて、水分が無くなってきたら完成。

Point

パスタを茹でる時、表示時間より1分程度早く取り出すと、やわらかくなりすぎるのを防ぐことができます。

今月の先生



藤坂支店管内 吉米地 文亮さん
野菜振興会ごぼう専門部会 副部会長
作付け品目…ゴボウ1.1畝、水稲9畝
大豆1.5畝、ネギ20畝

ゴボウにイタリアンは聞いたことがなかったのですが、興味本位で作ってみたのがきっかけです。他の野菜には出せないゴボウの風味が、意外とパスタによく合っておりです。パスタは2mmほどの太さ、ゴボウはぶつ切りにすると食べ応え抜群！
収穫が盛んに行われている今がゴボウの旬です。お店で購入する際は、ぜひ国産品を選んで、私たち農家を応援してくださいと嬉しいです。

みちのく episode 5
農紀行
 わたしの歩む道

七戸支店管内 **山田 真一さん** 44歳

組合員 = とき子さん(母) 家族構成: 本人、母、妻、息子2人、祖父母
 農業経営: ゴボウ90%、ニンニク90%、ナガイモ90%、米3%、ネギ35%

就農したのは4年前、父親が急逝したことがきっかけでした。ビニールハウスやトラクターを更新するなど、さまざまな物を先行投資したばかりで「さあ、これから」という時でした。長男である自分がいずれば継ぐと決めていましたし、残された畑や機械もある。やるしかない。その気持ちだけで、勤めていた会社を辞めて、住んでいた宮城県に妻と息子たちを残しUターンしました。サラリーマン時代はペンやパソコン、携帯を使っていた。今は身体や機械を使っている仕事。

現在
 ゴボウの収穫は11月8日から始めました。この後はナガイモの収穫、またゴボウ、ニンニクの調整作業、そしてゴボウと作業は続きます。今年のゴボウは大雨の影響を受けましたが、天候の回復で太みも出てきて、少し安心していきます。販売単価の低迷や資材価格の高騰で、数十年前の親の経営と比べて、手元に残るお金は大幅に減少していると思います。少しでも収入につなげるよう、冬場も休まずに畑を有効活用して、生産を続けるようにしています。

わからないからこそ体験
 ～追究・解決で選んでもらえる野菜づくり～

未来
 目標は規模拡大です。現状、なにわからない状態がたくさん出てくる疑問は、今後の経営のためにも一つずつ追究・解決につなげていきます。マニュアルが全てではありませんので、自分で体験し、本当に正しい方法なのか納得できる作業を続けていきたいです。「知らないからこそ体験」で消費者がおいしいと思える野菜を作っていきます。

思い
 全く違う仕事で知識もありませんので、すべてのことを「から学びながら日々の作業を行っています。」
思い
 肥料や資材の高騰、人材不足など、どれを取っても苦しい時代で、農家はどうか戦っていくのが問われています。消費につなげていくためには、どんどん宣伝をすることが重要。売ると決まらりますが、おいしいかどうかを決定するのは消費者の方それぞれです。お客様が商品を知り、納得して購入するためのプロモーションが大切だと感じます。野菜を売り込み販売するのは、JAや市場の役割です。作るのには私たち農家の役割です。自信をもって宣伝販売してもらうために、恥ずかしくない野菜を作る責任があると思っています。

未来
 目標は規模拡大です。現状、なにわからない状態がたくさん出てくる疑問は、今後の経営のためにも一つずつ追究・解決につなげていきます。マニュアルが全てではありませんので、自分で体験し、本当に正しい方法なのか納得できる作業を続けていきたいです。「知らないからこそ体験」で消費者がおいしいと思える野菜を作っていきます。



いつもおいしいお米やお野菜をありがとう
 【あゆみ保育園のみなさん】(もみいし支店)



ハロウィンイベント
 (HARUKUちゃん投稿)



まるで「おとぎの国」！？(婚活イベントP9参照)

管内の笑顔を収穫
畑でみっけ

面白いカタチの野菜や、仲間との農作業など、
 思い出の1枚をお寄せください!!

- ①お名前(ペンネーム可)
 - ②写真のタイトル
 - ③撮影時の様子
 - ④撮影場所
- 上記と合わせてメールでお送りください

E-mail kikaku@jatowada-o.or.jp

大募集!!



ご飯がすすむ定食はどれ?
 (投票受付中P12参照)



これは何...??
 来月の広報誌で教えます!

目次	霜月
楽しむ管内の笑顔を収穫 畑でみっけ	2
話題みちのく農紀行 【山田真一さん】 (七戸支店管内)	3
特集 2022年を振り返る 活動紹介 Dick up! イキキ活動	4
ニュース Photo News	7
お知らせ 米販売要請報告	8
話題「こはん・お米とわたし」 入賞者紹介	9
楽しむわたしの推し弁	10
お知らせ 年末年始の営業日	11
お知らせ 情報掲示板	12
お知らせ かだあくれ情報	14
楽しむクロスワードパズル	15
料理 農家さんの料理教室 「これぞ男飯」 ゴボウ香るべべロンチーノ 【吉米地文亮さん】	16

Agresh 12 2022 月号
 No.153

公式ホームページ

Facebook

JA十和田おいらせの2022年を振り返る

令和4年1月1日～11月30日

特集

2022年は長引くコロナ禍や需給バランスの乱れなどで、農畜産物の価格低迷が続いたほか、8月の豪雨による農作物への被害、不安定な社会情勢による燃油や肥料、生産資材の高騰で耐え難い環境下となりました。

JAは首都近郊へ出向く販売要請を再開し、農畜産物の消費拡大に努めたほか、農家巡回の強化で現場の声を拾い、国や行政に窮状を訴え支援を強く要請。JA独自の支援対策も検討しています。

1月

・「水田活用直接支払交付金」見直し
苦境訴え国会議員に要請
国が主食用米の転作を促す「水田活用の直接支払交付金」の条件を厳格化することに対し、県選出の国会議員4人に従来通りの対応を国に求めるよう要請書を提出しました。

・ナガイモレシピコンテストで特産PR
主力品目ナガイモの消費拡大を目的にコンテストを開き、全国各地から57点の応募が集まりました。

2月

・宮農指導員の指導力強化へ
「宮農プロジェクト発表会」
宮農指導員が生産現場での課題解決に向けた試験区での検証結果を報告・共有しました。

・皮ごと食べて無駄なくSDGs 広報で宣伝
管内の特産品と食品ロスの削減につながるため、准組合員日より「アモぼーる」で野菜を皮ごと使ったレシピを紹介しました。

3月

・種苗費助成、利用奨励金等、
総額約1.2億円の農家支援

- ① やさい産地拡大対策事業に係る助成金の支払い……………約1572万円
- ② 肥料・農薬・ダンボール 奨励金の支払い……………約6471万円
- ③ やさい集荷対策金の支払い……………約4632万円

4月

・肥育農家の負担軽減 633万円の特別支援

- ① 黒毛和牛枝肉価格低迷支援助成……………2600万円
- ② 肥育預託金利助成……………2500万円
- ③ 黒毛和牛枝肉産地銘柄確立支援助成……………57万円
- ④ ゲノム解析料金助成……………66万円

・支部初 ナガイモ品評会
JA野菜振興会大深内支部で支部初のナガイモ品評会を開催。品質向上と生産者間の親睦を深めることが目的で、その後は「リンク品評会」も開いています。

5月

・閉校記念 田んぼアートで感謝の気持ち
十和田市立松陽小学校の全校児童と父兄、JA青年部員らは、閉校記念に創立50周年の「50」と校章をモチーフにした田んぼアートに挑戦しました。

6月

・充実設備 中央カントリーエレベーター完成
総処理量約7000トンでトラックスケール対応や高性能色彩選別機など充実の調整設備を備えています。

7月

・JAX三本木農業恵拓高校 JAの役割理解を
JAの施設見学や特産品の試食、職員との意見交換会でJA事業の理解を深め、イメージ向上につなげました。

・広報誌「アグレッシュ」リニューアル
読者参加型ページを新設。人にスポットを当て、JA事業の理解促進と親しみやすい地域農業の振興につなげていきます。



6月)完成した中央カントリーエレベーター



7月)農高生と意見交換



8月)豪雨で浸水したネギほ場



8月)「プレミアムにんにくパウダー」CM動画



7月)広報誌「アグレッシュ」リニューアル

8月

・令和4年度8月豪雨被害対策本部「設置(26日)」
収穫目前のネギや大豆などが浸水したほか、ほ場冠水によるソバやニンジンの発芽不良、水田や畑への土砂流入などの被害を受けました。被災農家は697戸で、13品目以上710.97畝に及びます。

・水田転作にタマネギ
タマネギの試験栽培を始めました。産地リレーを円滑につなげ、輸入品の減少による供給量の不足を補いたい考えです。



8月)県選出議員に豪雨被害の窮状訴える

9月

・令和4年産米「まつしぐら」概算金
1等60キ9,300円

・青森県全体のコメの作況指数「99(平年並み)」
〜東北農政局9月25日現在〜



8月)試験栽培のタマネギ収穫

10月

・管内出場牛 健闘
第12回全国和牛能力共進会鹿児島大会
第2区 さきひら号(出品者:古川亮さん)1等賞9席
第3区 むぎ号(出品者:沢目寿弘さん)2等賞

・米消費拡大へ「定食No.1決定戦」
夜の果樹園で楽しく婚活

・JA青年部と十和田市が体験型婚活イベント「林檎はもがNight恋は実らせないと」開催。男女15人がラブイトアップされたリンク園で交流を深めました。



10月)鹿児島全共で出場牛健闘!!



稲作振興会七戸支部



稲作振興会七戸支部の役員ら8人は11月7日、(株)ライケットの精米工場と桃川(株)を視察訪問しました。

(株)ライケットでは、日本酒を作るために適した精白度まで精米する様子や不良粒を捉えて取り除く色彩選別の様子を見学。桃川(株)では清酒からろ過、熟成、調合を経て、日本酒が出来上がるまでを学びました。

「まっしぐら」を使用した日本酒は「桃川純米酒」「ねぶた」「杉玉」などで、全国の各種酒類コンクールで金賞や1位を受賞しています。

視察終了後、工藤稔支部長は「各社が引き続き安定的な取引を望んでいることに安堵した。今後も良質な生産に努めていく」と意気込んでいました。



※当JAの加工用米の契約俵数のうち、七戸支店管内の俵数は5,052俵と全体の8割を占め、(株)ライケットを經由し各実需者へ販売されています。



肥育牛部会

当JA肥育牛部会は11月24日、東京都中央卸売市場食肉市場で枝肉研究会を開きました。当JA管内から24頭(雌牛6頭と去勢牛18頭)が出品され、JA全農ミートフーズ(株)の職員が、歩留等級(ロース、バラ、皮下、歩留基準値)、肉質等級(BMS、光沢、締まり)などを総合的に審査しました。

研究会と共励会の各種大会を合わせて年8回開き、生産者同士が枝肉の状況を確認しながら、情報の共有を図り、肥育管理の改善・向上につなげています。

今回の成績は以下のとおりです。



	生産者	性別	枝重(Kg)	単価(円)	格付	BMS (牛脂肪交雑基準)
最優秀賞	(株)水尻畜産	雌	462	3,023	A5	12
優秀賞	折田 勝男	雌	485	2,759	A5	11
	小笠原 吉蔵	去勢	507	2,485	A5	10
優良賞	折田 勝男	去勢	629	2,491	A5	10
	加賀 訓	去勢	621	2,566	A5	10
	加賀 訓	去勢	580	2,455	A5	10

ロシアのウクライナ侵攻 燃油や肥料などの価格に影響

ロシア軍は2月24日、ウクライナへの本格侵攻を始めた。この事態を受け、原油や穀物の国際相場が軒並み上昇したことから、燃油や肥料を含め、農業資材価格が一段と高騰した。その後、円安などの要因が加わり、農産物の輸入価格が上昇。調達価格にも影響し、スーパーや外食では国産への切り替えや国産の構成比を高める動きが出た。

安倍元首相 撃たれ死亡

自民党の安倍晋三元首相が7月8日、死亡した。67歳だった。同日午前11時半ごろ、奈良市の近鉄大和西大寺駅前前で演説中に銃撃を受け、心肺停止の状態状態で病院に搬送されたが、その後死亡が確認された。安倍氏は首相に2度就任し、在職期間は通算3188日で憲政史上最長。農業の成長産業化を掲げ、数々の政策改革を行った。

東北などで記録的大雨 激甚災害に指定

東北や新潟県などでは8月、前線や低気圧などの影響を受け記録的な大雨が降った。この影響で河川の氾濫が発生。住宅への被害や農作物にも大きな被害が出た。青森県でも米やリンゴ、ネギなどの農作物が水に浸かるなど甚大な被害となったことから、政府は、激甚災害に指定した。

鹿児島全共 和牛五輪で熱闘

第12回全国和牛能力共進会(全共)が10月、鹿児島県で開かれた。過去最多の41道府県から九つの区に438頭が出品され、改良の成果や飼養管理の技術を競った。全共は5年に1度開かれる国内最大の畜産共進会で「和牛のオリンピック」とも呼ばれる。今大会のテーマは「和牛新時代 地域かがやく和牛力」。

みどり戦略 有望技術81選 早期導入つなげる

農水省は「みどりの食料システム戦略」の実現に向けて、2030年までに利用可能と見込む「次代」の技術をカタログにまとめた。品目別に、化学農業・肥料や温室効果ガスの削減、生産性の向上に役立つ81の技術や品種、機械を紹介。有望な技術を開発段階に伝え、早期の導入につなげる。

震度6強 農業被害 福島 M7・4

3月16日午後11時36分ごろ、福島県沖を震源とするマグニチュード(M)7・4の地震があり、宮城県登米市や福島県相馬市などで最大震度6強を観測した。死傷者が出た一方で、農業被害も相次いだ。特に目立ったのが農業用のため池のひび割れ。宮城、福島の両県ともに億単位に及ぶ被害額となった。田植えシーズンを前に、復旧作業に大わらわだった。

与党大勝 改選過半数

第26参院選は7月10日、投開票され、自民、公明両党で改選議席の過半数となる63議席を上回り、与党が勝利した。全国32ある「1人区」でも着実に議席を確保。野党第1党の立憲民主党は苦戦した。その後、岸田文雄政権は、生産資材高騰対策や食料安全保障政策の見直しに取り組んだ。

優勝旗ついに東北へ 仙台育英が甲子園V 農家も歓喜

歴史的快挙に東北の農家ら歓喜——。全国高校野球選手権大会で8月22日、宮城代表の仙台育英高校が東北勢悲願の初優勝を果たし、深紅の優勝旗が白河の関を越えた。この一戦を見届けようと、農業関係者らは作業の合間を縫っても同校ナインの一挙手一投足に熱視線を送った。

畑地化に10アール2万円 麦・大豆・ソバ 5年間助成

農水省は11月2日、2023年産から設ける、水田の畑地化を条件に麦や大豆、飼料作物、ソバなどの生産に5年間助成金を出す措置について、助成単価を10アール当たり2万円にする方針を示した。畑地化した年に限り助成する額は同14万円にする。22年度第2次補正予算案で250億円を充てる「畑地化促進事業」で支援する。

食料確保に計1642億円

農水省は11月2日、農林水産関係が総額8206億円となる2022年度第2次補正予算の案を自民・公明両党に示し、了承された。焦点の食料安全保障の強化に向けた予算は計1642億円を計上。肥料・飼料の国産化や畑作物の振興などに向けた支援を措置する。